理論懇ニュース　　１９９５年２号

発行 ： 理論天文学懇談会事務局　　(東京大学理学部物理学教室 ・宇宙理論研究室内)
電話 :03-3812-2111 内線 4177　　ファックス :03-5684-9642
e-mail: tatsushi@yayoi.phys.s.u-tokyo.ac.jp
1995 年 6 月 1 日

⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕

京都大学基礎物理学研究所運営委員選挙

京大基礎物理学研究所における現運営委員の任期終了 (１９９５年７月) にともなう改選に関して、基研所長から理論天文学懇談会に２名の推薦依頼がありました。この運営委員の任期は９５年８月から９７年７月までの２年間です。この委員は基研所外委員です。

理論懇としては、例年通り、別添の投票用紙による投票で基研への２名の推薦者を決定したいと存じます。

慣例にしたがって、推薦 (自選 ・他薦) をネットワーク上で自由に行って下さい。被選挙権のある方は理論懇会員に限られますが、以下の６名には被選挙権はありません。

連続三選禁止則が適用される方 ：佐藤勝彦
基研所員 ：小玉英雄、冨田憲二、中村卓史、福来正孝、横山順一

基研の運営委員の役割と基研の活動については、別紙の横山さんの文章をお読み下さい。事務局といたしましては、全ての会員の方に、この選挙の意義を御理解いただいた上、投票に参加していただきますよう切望いたします。

別添の被選挙人名簿から２名 (以内) を投票用紙にご記入の上、同封の規定投票用封筒にて、６月１５日 (必着) までに理論懇事務局に郵送して下さい。

⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕

理論懇運営委員会、総会

神奈川大学で行われた天文学会春季年会の際、理論懇運営委員会 (３月２４日) と総会 (２５日) が開かれました。主な議題は以下の通りでした。

1. 本年度理論懇シンポジウムについての説明が、京大基研 ・横山氏よりありました。開催期間は１２月２０日 ~ ２２日、場所は京大基研 (北白川) の予定で、世話人は横山 (京大基研)、山田、西 (京大物理)、柴田 (阪大宇宙地球) の各氏です。またテーマとして、「理論天文学における数値シミュレーションの信頼性」などの案が出されました。

2. 松田氏からの、神戸大 ・地球惑星の被災学生に対する義援金の呼びかけに、理論懇としてどう答えるべきかについて話し合われました。各会員が属する研究機関ごとに、できる限り協力していくことになりました。

3. 京大基研運営委員選挙についての説明が、京大基研 ・横山氏および事務局の杉之原よりありました。内容は、上記の「京大基礎物理学研究所運営委員選挙」の項目で記載した通りです。

4. 京大基研からの報告が横山氏よりありました。基研も COE(center of excellence) に指定され、予算や研究員等の拡充が見込まれているため、理論天文学関係研究者がより積極的に基研を利用することが期待されています。

5. 理論懇の新規事業についての運営委員会からの提案が、運営委員長の花輪氏よりありました。詳しくは、以下の「理論懇の新規事業について」の項目をご覧下さい。

⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕

理論懇の新規事業について

理論懇の新規事業について、運営委員会から以下のような提案がなされています。この提案について、アンケート（別紙）に御協力下さいますよう、お願い致します。アンケートは6月末日までに、理論懇事務局（〒 113 東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学理学部物理学教室・宇宙理論研究室内）に郵送して下さい。

背景

理論天文学懇談会は 1987 年に設立され、毎年冬に理論懇シンポジウムを開催してきましたが、そのほかの事業は各種選挙と理論懇ネットワークの管理・運営のための経済的援助など事務的なものに限られています。会の活動性を高めるために、新規の事業を興してはどうかと昨年度から総会や運営委員会で検討されてきました。今年度は当初から、電子メイルを通じて運営委員の間で議論を進めてきました。ここで提案するのは、その議論をもとに３月２４日の運営委員会、３月２５日の総会で継続審議された事項です。

提案する事業は、(1)「日本の理論天文学」の発行、(2) 大学・研究所の談話会への講師派遣、(3) インターネット上での理論天文学懇談会のホームページ [www] の開局と運営 の３つです。詳しくは後述しますが、それぞれについてアンケートで会員全体の意見を聞き、過半数の賛同が得られた事業については実現させていきたいと考えています。

(1)「日本の理論天文学」の発行

会員諸氏の研究について相互理解を深めるために、「日本の理論天文学（仮称）」を編集・印刷・配布することを提案します。American Astronomical Society や 国内外の研究所が発行している年次報告に類似したものを想定していますが、研究内容の紹介が目的ですから、義務的に「業績」を列挙するようなことは避けたいと思います。共同研究のパートナーや研究会の講演者探し、大学院受験生の研究室選択などに役立つことを期待しています。

具体的な方針は以下の通りです。

a) 「日本の理論天文学」発行のため編集委員を選定する（候補者:花輪知幸、杉之原立史）。

b) 所属する研究グループごとに原稿を作成して頂き、編集委員に投稿する。原則として理論天文学懇談会会員による研究の紹介とするが、同一グループに所属する大学院生等を含めても構わない。

c) 原稿は、同封したサンプルのように、研究グループの構成と研究内容の紹介を中心とする。必要ならば代表的な論文や最近の論文の文献を記載してもよい。ページ数は所属する理論懇会員数に応じて適宜制限する（例えば、２人以下のグループは１ページ、３人以上５人までは２ページ、６人以上は３ページとする）。

d) 原稿は日本語 LaTeX のファイルとして E-mail 等で編集委員に投稿する。

e) 部数とほぼ無関係に１頁あたり 2,000 円の経費が必要なので 500-1000 部程度印刷する。総頁数は 100 頁弱と見積もられる。 (会員数は 200 人弱)

f) 原稿締切を 1995 年 9 月 30 日とし、理論懇シンポジウムまでに出版する。

(2) 大学 ・研究所の談話会への講師派遣

各大学 ・研究所で行われている談話会での講演者に旅費 (1 泊 2 日程度) を支給し、研究交流を促進することを考えています。手続きとしては、まず、受け入れ側と講演者の間で、事前に了解を得た上、受け入れ側が理論懇に招聘旅費の申請をするという形にします。講演者の選考にあたっては、ある人数 (たとえば５人) の会員の推薦があればほぼ自動的に認めるやり方を考えています。これは厳しい審査をすることが会にとって負担であるからです。その代わり１会員の推薦は１件かぎりとして、財政的に支障がないようにしたいと考えています。

運営委員会では研究交流のための旅費は他にも財源があるので、他の事業の推進が望ましいとの意見もありました。

理論天文学懇談会の９４年度繰越金は５０万円程度ですので、ある程度の財源はありますが、この事業は会にとって大きな出費となります。

(3) 理論懇のインターネット利用 (とくに **www**)

最近のインターネットの発達は驚くばかりです。理論天文学懇談会では、早い時期から名簿に E-mail address を掲載したり、通信連絡に E-mail と自動 fax 転送を利用したりと、インターネットを活用してきました。昨年からは www (mosaic) を利用して情報交換を行う方法が身近になったことから、理論天文学懇談会でも www のホームページをもってはどうか意見があります。ホームページの内容やその管理方法などはまだ具体的にはなっていません。内容や管理方法について意見 ・提案を歓迎します。

参考までにつけ加えると、天文学会でもホームページを開設することを企画中です。

文責 :花輪 知幸

⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕

会費納入のお願い

１９９５年度の会費 (2,000 円、但し学生の方は本年度より 1,000 円) を同封の振替用紙により、６月末日迄に御納入下さい。なお昨年度以前の分の会費が未納となっている方は、併せて納入していただきますようお願いします。

新規事業に関するアンケート

同封の理論懇ニュースの「新規事業について」をお読みの上お答え下さい。

送付先 :〒 113 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学理学部物理学教室 ・宇宙理論研究室内
理論懇事務局

1. 「日本の理論天文学 (仮称)」の発行について

   a. 賛成　　b. 反対　　c. どちらとも言えない

2. 大学 ・研究所の談話会への講師派遣援助について

   a. 賛成　　b. 反対　　c. どちらとも言えない

3. 理論懇のインターネット利用 (とくに www) の推進について

   a. 賛成　　b. 反対　　c. どちらとも言えない

4. その他御意見 ・御提案がありましたらお書き下さい。

御協力ありがとうございました。

---------- きりとりせん ----------

基研運営委員投票用紙
2 名以内連記 理論懇印なきもの無効
〆切１９９５年6月１５日必着

京大基礎物理学研究所運営委員の選挙について

理論天文学懇談会会員の皆様

京大基礎物理学研究所の運営委員の改選選挙の投票を行うにあたり、基研の運営委員の役割と基研の活動について御紹介させていただきます。本研究所は湯川秀樹氏のノーベル賞受賞を受けて設立されたわが国初の全国共同利用研究所であり、その性格から、研究所の運営には全国の関連分野研究者の意向が反映されるようなシステムになっています。基研の運営には所外委員を多数擁すいくつかの委員会が関与していますが、このうち今回選挙の行なわれる運営委員会はその最高位にたつもので、所員や客員教授、研究員等の人事を実質的に決定し、研究所の将来を方向づけるもっとも重要な委員会です。また、本研究所は本年文部省により COE(center of excellence) の指定を受け、予算の増額、研究員の増員等さまざまな拡充が予定されています。この機会に天文宇宙関係の共同利用の一層の推進のためにも、すべての会員の皆様が投票されますよう、ご案内する次第です。基研の活動の詳細については以下の小文を御参照下さい。

理論天文学懇談会 運営委員
京都大学基礎物理学研究所
横山順一

= = = =

等々、かなり使いでのある額の予算を持っており、国立天文台と異なり、本研究所が理論専門の研究機関であることの強みを発揮した形になっています。こうした予算は COE の本格稼働によってさらに増額されることが期待されています。これを理論天文学のコミュニティーとして十分に活用することは、可能であるばかりでなく極めて重要なことであります。 実際、理論天文学懇談会のシンポジウムはすでに過去 2 回基研研究会として開催され、また本年度も当所で開催されることになっています。しかし、研究会の申請は企画を持った数名の世話人が個人の資格で行なうものであり、その審査も極めてオープンになされているため、この面からも理論懇の多くの会員の積極的な参加が期待されています。

最後に、基研は共同利用研として、特に研究環境の恵まれていない場所で頑張っておられる方々へのサポートを重視する義務がある (と一般に考えられている) ことも付記しておきます。

2 京大基研の運営形態

ここで、以上のような基研を利用する上で重要なのは、その運営形態です。これは、かなり歴史的なものをひきずっていて、分かりにくい面も多いのですが、ある意味では極めて透明・民主的になっています。最も実際的な、つまり前述のさまざまな研究活動への予算の配分を決定するのは、各分野から選挙で選出された研究部員・運営委員、および基研の所員からなる、年 2 回の研究部員会議です。また、年 2 回の研究部員会議の後、および必要に応じて開催される運営委員会では、基研の所員の人事決定、また、基研が持っている 1 名の外国人客員教授 (半年 ~ 1 年)、数人程度の短期外国人招聘研究者 (3 カ月)、等の決定を行ないます。また、湯川財団からの補助による PDF である、基研研究員の選考も運営委員会で行なわれています。というわけで、もし、基研を十分活用しようと考えるとすれば、研究部員・運営委員の役割がかなり大きなものとなることがお分かりいただけると存じます。

これらの委員は、物理の分野ごとの選挙母体からの推薦をもとに決定されます。研究部員の場合、具体的には、素粒子・原子核分野は素粒子論グループより２０名、物性分野は物性グループより１０名、宇宙物理分野は理論懇より 4 名、が定員となっています。任期は 2 年で、毎年半数が改選されます。一方、運営委員はこれとは少し違い、基研所内より 8 名 (+ 所長)、所外より、素核・物性・宇宙がそれぞれ 6・4・2 の定員をもっています。任期は 2 年で、2 年ごとに改選されます。ちなみに、連続 3 選は禁止されており、基研所員には被選挙権はありません。

3 投票のお願い

以上が基研の運営の概略ですが、ここでお願いしたいのは、ぜひ選挙に投票して頂きたいということです。理論天文学懇談会を設立し、理論天文学のわが国における研究の市民権を確立しようという先人の方々の努力は、少なくとも現在の、基研では割合実っているという感があります。しかしながら、いつも問題になるのは選挙の際の投票率の低さです。例えば、素粒子論グループでは例年派手な推薦活動を繰り広げ、１００票以上獲得した人が１０名改選されるのに対して、理論懇では１０票余り程度の人が 2 名選出されるというのが現状です。この票数等は、公表されますので、“天体の人は牧歌的ですな” などという、いやみをいわれることもしばしばです。それはいいとしても、研究会の開催等の議論になってくると、やはり多くの方の選挙結果をうけている、ということは強みであり、少なくとも基研を利用しての理論天文の研究の発展にとって良いことではありません。このような状況を御理解の上、皆さんが投票を行なって下さることを、理論天文学懇談会 運営委員一同を代表してお願いしたいと思います。